

Q & A

健康栄養科学研究科に寄せられる、よくある質問をご紹介します。
詳細はwebサイトをご覧ください。



Q.1 受験を希望する人はどのような人が多いですか？
管理栄養士でなければダメですか？

A.1 管理栄養士である必要はありません。健康や栄養、食に関連する分野で学びたい方が対象です。例えば、体育学部や保健学部卒で健康づくりに興味がある、経営学部卒で健康や食の分野でマーケティングと関連する研究をしたい、地域行政を学んでいるが地域の健康課題解決のためのマネジメントを学びたい方など、門戸は大きく開かれています。

Q.2 大学を卒業していないのですが、
受験することはできますか？

A.2 短期大学卒や専門学校卒の方も個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた場合には受験が可能です(22歳以上の方に限ります)。また、大学を卒業していなくても、独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された方、海外において学校教育における16年の課程を修了した方、文部科学大臣に指定された専修学校の専門課程(修業年限4年以上)を修了された方なども受験が認められています。

Q.3 修了には必要な単位を取得すればよいのでしょうか？
修士論文は修了要件ですか？

A.3 合計30単位を取得し、修士論文の審査に合格する必要があります。講義科目の履修だけでは修了できません。

Q.4 社会人入学者へはどのような配慮がなされていますか？

A.4 長期履修制度のほか、社会人でも学びやすいように、履修しやすい時間帯・曜日での授業開講、集中講義、eラーニングなどの環境を整えています。

Q.5 長期履修制度とは何ですか？

A.5 長期履修制度とは、就業、出産や育児、介護等の理由から修士課程の標準修業年限(2年)内での修業が困難な方の場合、3年間又は4年間での計画的な学修を認める制度です。



三輪キャンパス 長野市三輪8-49-7

- JR「長野」駅 善光寺口乗り換え 長野電鉄(乗車6分)「本郷」駅下車(徒歩10分)
- JR「長野」駅 善光寺口6番バスのりば 長電バス(乗車15~20分)「城山団地」下車(徒歩5分)



長野県立大学大学院

健康栄養科学研究科ガイドブック



健康・栄養・食の分野から 未来のNAGANOを創造する

地球規模の急激な社会変化と膨大な情報の嵐の渦に

多くの人が不安を抱えています。

だからこそ、世界の潮流を冷静に見極め、地域課題の解決に真摯に取り組み、
持続可能な社会を構築していく、

より高度な倫理観と専門性を備えたリーダーが求められています。

長野県立大学は、2022年4月、念願だった大学院を開設しました。

「健康栄養科学研究科」と「ソーシャル・イノベーション研究科」。

この2つの研究科が、長野の新しい未来を創出し、

科学的根拠に基づく健康長寿を実現していきます。



長野県立大学 学長
金田一 真澄



10年後、20年後の社会を見据えて、 5年後、10年後の自分を創造する

日々更新される膨大な情報。10年どころか5年前の教科書もすでに過去のもので。急速に革新されていく技術。子どもの頃からICTツールに馴染んでいる世代が軽やかに追い抜いていきます。さらに、急激な気候変動、多発する自然災害、COVID-19の感染拡大と落ち込む経済、そして内戦も含めた戦乱。足がすくんでしまいそうですが、それでも、AIの時代は、とどまることなく歩み続けることを私たちに求めています。

平均寿命で世界のトップレベルを誇る長野県は、3,000m級の山々と清流が織りなす雄大な自然に囲まれ、長い歴史と文化、地域特有の郷土食や祭事、結びつきの強いコミュニティなど、多くの魅力があります。一方で、少子高齢化と人口減少、生活習慣病やフレイル、要介護者の増加、

子どもの貧困や健康格差の拡大など、課題は山積みです。

多様で複雑な社会背景を踏まえ、自らの確な問いを立て、倫理的かつ科学的で合理的な解決方法を考え実践する。その結果を真摯に受け止め、論理的に考察し、持続可能な健康長寿社会を構築していくことが求められています。

健康栄養科学研究科では、健康や栄養・食をとりまく諸課題に、人びとや社会としっかり向き合いながら、創造的に取り組もうとするあなたを、力強く後押しします。国際社会が一致団結して目指すSDGs（持続可能な開発目標）の達成。健康は、全ての項目に関わっています。一人ひとりの確固たる行動は、誰一人取り残さない社会を目指す一員としての歩みです。



健康栄養科学研究科長
稲山 貴代 教授

女子栄養大学栄養学部卒業、筑波大学大学院体育研究科修了。管理栄養士、博士（スポーツ医学）。専門分野は応用栄養学、健康科学、公衆栄養学。著書『ライフステージ栄養学』『食と健康の科学』他。

概要

専攻	健康栄養科学専攻
課程	修士課程
学位の種類	修士（健康栄養科学）
標準修了年限	2年
入学定員	5名

特色

- 科学的根拠に基づき長野県の健康長寿を牽引できる健康栄養分野の高度専門人材の養成
- 長期履修制度、履修しやすい時間帯の授業開講、ICT技術を活用したeラーニングなど、社会人も学びやすい環境の整備
- 「健康栄養科学+データサイエンス」の修得、医療・福祉などとの連携による健康寿命の延伸、地域の健康づくりへの貢献
- 正指導教員・副指導教員による複数体制での修士論文指導による研究成果の発信

入学から修了までの特別研究指導スケジュール

健康栄養科学研究科は、正指導教員・副指導教員による研究指導体制をとっています。現場で抱えている悩みや卒業研究で抱いた疑問から“リサーチクエスト”を立て、解決法を

考え、実践し検証します。その成果を学会発表や論文で情報を発信します。最終的に、修士論文にまとめ発表し、学位を取得するまでを支援します。

2年間の標準モデル

1年次			
4月	5月～	10月～	12月～
■ 研究分野および指導教員の決定	■ 研究テーマの検討 ■ 研究計画の検討	■ 研究計画の立案 ■ 研究計画の作成	■ 研究計画書の提出 ■ 倫理審査
2年次			
	7月～	～12月	1・2月～
	■ 修士論文中間発表会	■ 学外の学術集会などでの発表	■ 修士論文提出 ■ 修士論文発表会（審査会） ■ 修士論文最終提出

※長期履修制度を活用する場合は、3年または4年間で修了するスケジュールになります。

施設・設備

管理栄養士養成施設校である本学は、遺伝子・細胞・動物実験、食品実験などの基礎的な研究から、健康教育、臨床栄養、公衆栄養（国際栄養）、地域保健などの応用研究までを可能とする施設を整えています。それに加え、データサイエンス修得のためのSPSSが利用できる情報処理ツールなども整備しています。



3つの方針

大学院で養成する人材像

- 健康栄養分野の科学に精通した高度な専門知識と技能を有する人材
- 健康・栄養行政、地域の健康づくりに貢献できるリーダーとなる人材
- 地域の食品関連産業、地方創生に貢献できるリーダーとなる人材
- 科学的根拠に基づいた研究成果を国内外の学術集会などを通し情報発信できる人材



1

入学者受入れの方針
（アドミッション・ポリシー）

AP 1

健康栄養分野に関する管理栄養士と同等の基礎的な知識と技能をもち、さらに当該分野における、より高度な知識や技能を伸ばしたいという意欲をもっている

AP 2

健康栄養分野で、公平かつ自律的に持続可能な社会の実現に向けて、積極的に地域の健康・栄養問題や食品関連産業などにおける課題に取り組もうとする精神をもっている

AP 3

地方から国内、さらに世界に向けて情報発信できるリーダーとして活躍したいという向上心をもっている



2

教育課程編成・実施の方針
（カリキュラム・ポリシー）

CP 1

研究倫理と科学的視野を涵養するうえで基盤となる知識と技能を身につける教育研究を行う

CP 2

健康栄養分野を学ぶうえで多角的に理解するための専門的な知識と技能を身につける教育研究を行う

CP 3

健康栄養分野に関する応用科学として、個人や集団、地域社会での応用・実践にかかわる領域について教育研究を行う

CP 4

健康栄養分野に関する基礎科学として、健康と食品にかかわる領域について教育研究を行う

CP 5

科学的根拠に基づいた研究成果を、国内外の学術集会などにおいて広く発信ができる力を身につける教育研究を行う



3

学位授与の方針
（ディプロマ・ポリシー）

DP 1

健康栄養分野に関する高度かつ専門的な知識と技能

DP 2

地域の健康・栄養問題について、自ら課題を発見・設定し、その課題を解決する能力

DP 3

地域の食品関連産業や地方創生において、自ら課題を発見・設定し、その課題を解決する能力

DP 4

科学的根拠に基づいた研究成果を、国内、さらに世界に向けて発信する能力



研究科と社会との関わり

日本が抱える健康課題は複雑で多岐にわたります。
解決には、地域社会の健康栄養課題を解決し健康づくりを牽引できる人材、
新たな商品やサービスからの地方創生ができる人材の養成が必要です。
関連する諸機関との連携を促進し、
多様な場で、科学的根拠に基づく成果を社会に還元し、
持続可能な健康長寿社会の構築に貢献することを目指します。



地域高齢者の健康支援を栄養管理から



新井 武志 教授
応用健康科学、身体教育学、リハビリテーション科学・福祉工学、疫学・予防医学

高齢者の介護予防、フレイル予防が私のメインの研究テーマで、現在は地域包括ケアシステムの構築とまちづくりに関する研究にも取り組んでいます。担当する「健康・栄養政策」と「地域健康づくり活動論」の授業では、自治体が進めている健康政策の理解を深め、私がこれまでに経験した地域づくりでの健康増進の取り組みなどを伝えることで、PDCAサイクルに沿った施策の推進を地域と共に学びます。「研究倫理と研究法」の授業では、修士論文執筆に必要な研究力や調査力、情報活用力の向上を図り、将来、地域や就業現場のなかでリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指していきます。

最新知見から行動科学の理解を深化



新保 みさ 講師
栄養教育、行動科学、健康科学

成人期の栄養教育を主な研究テーマとし、近年はコロナ禍で増えた特定保健指導のICT面接について研究しています。専門は栄養教育や行動科学で、研究成果が実際の生活での実践へ結びつくことに興味深さを感じています。大学院では「栄養教育特論」の授業を担当します。人間のさまざまな行動を実証的に解明する行動科学の理論やモデルについて時代の変遷や最新の知見から学び、ディスカッションを通して理解を深めます。院生の皆さんには高度で深い学びを通して知識の引き出しを増やし、それぞれが活躍する医療機関や教育機関、保健所などの現場で生かしてほしいと考えています。

医療現場で役立つ実践的な専門知識を



石井 陽子 教授
人体病理学、実験病理学、健康科学

専門分野は病理学で、疾患モデルの系のなかで細胞内外のシグナル分子の動態について研究しています。担当する「健康医学特論」では、医療現場で使用する各種疾患のガイドライン等を教材とし、病院など臨床現場の管理栄養士が直面する多様な課題に応用できるような授業を展開しています。昨今話題となったアルツハイマー病疾患修飾薬のレカネマブやHPVワクチンのほか、一人ひとりの院生から要望を聞き、がんゲノム医療や分子標的薬、標準治療と先進医療、iPS細胞を用いた再生医療などの題材も取り扱いました。一方的な解説ではなく院生が興味をもつテーマで共に学び、討論することで、専門的かつ主体的な学びの促進に努めています。

NAGANOから科学的根拠を世界に発信

特別研究を通して、評価につながる“リサーチエクステション”の立て方、課題解決の手法、論理的思考能力を養います。その成果を学術集会などで発表し、プレゼンテーション力に磨きをかけます。ディスカッションや査読への回答などの経験を積み、科学の場でコミュニケーションできる能力を身につけていきます。科学的根拠に基づく特別研究での成果を、修士論文におさめるだけでなく、NAGANOという舞台から国内、さらには国外に向けて発信していきます。目指すのは、修了後、健康、栄養、食に関わる分野でリーダーとして活躍する姿です。



教員紹介（健康発達学部食健康学科教員含む）

教授

新井 武志

アライ タケン

【専門分野】

応用健康科学、身体教育学、リハビリテーション科学・福祉工学、疫学・予防医学

【研究テーマ】

介護予防・フレイル予防、地域包括ケア、ヘルスプロモーション、自立支援・重度化防止、転倒予防

【担当授業科目】

研究倫理と研究法／健康・栄養政策／地域健康づくり活動論／応用健康栄養科学演習／インターンシップ B: クリニカル・ニュートリション実習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

教授

加藤 孝士

カトウ タカシ

【専門分野】

発達心理学、教育心理学、こども学

【研究テーマ】

こどもやこどもの支援に関わる人物が健康的に生活するための支援方法

【担当授業科目】

子どもの健康発達心理学特論／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

教授※

杉山 英子

スギヤマ エイコ

【連絡先】

sugiyama.eiko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

生命科学、脂質生化学、食品科学

【研究テーマ】

脂質代謝の調節機構の解明と摂食障害の病理理解・予防啓発

【担当授業科目】

健康栄養科学特論／基礎健康栄養科学演習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

准教授

上延 麻耶

ウエノ ベマヤ

【専門分野】

給食経営管理学、フードマネジメント

【研究テーマ】

事業所給食や地域住民を対象とした食環境整備およびヒト介入試験による食品成分の健康効果実証・評価

【担当授業科目】

フードマネジメント特論／応用健康栄養科学演習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

講師

座光寺 知恵子

ザコウジ チエコ

【専門分野】

臨床栄養学、チーム医療

【研究テーマ】

がん化学療法における栄養療法・食事支援

担当授業科目】

医療栄養学特論／応用健康栄養科学演習

教授※

石井 陽子

イシイ ヨウコ

【連絡先】

ishii.yoko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

人体病理学、実験病理学、健康科学

【研究テーマ】

生体の恒常性維持に関する諸因子の作用機序の解明

【担当授業科目】

研究倫理と研究法／健康医学特論／基礎健康栄養科学演習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

教授※

草間 かおる

クサマ カオル

【連絡先】

kusama.kaoru@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

公衆栄養学、国際栄養学、健康科学

【研究テーマ】

栄養ハイリスク者の栄養評価と食支援

【担当授業科目】

国際栄養学特論／応用健康栄養科学演習／インターンシップ D: 海外フィールドワーク実習

教授※

中澤 弥子

ナカザワ ヒロコ

【連絡先】

nakazawa.hiroko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

食文化研究、調理科学、生活科学

【研究テーマ】

生活文化も含めて日本を含む世界の食文化の特徴やその形成や変容について明らかにすること

【担当授業科目】

食文化特論／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

准教授

塩屋 幸樹

シオヤ コウキ

【専門分野】

微生物学、農芸化学、醸造学、食品科学

【研究テーマ】

有用微生物の分離・同定とその微生物を用いた食品開発

【担当授業科目】

食品科学特論／基礎健康栄養科学演習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

講師※

新保 みさ

シンボミサ

【連絡先】

shimpo.misa@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

栄養教育、行動科学、健康科学

【研究テーマ】

ライフステージに応じた食行動の変容や食環境づくりに関する研究

【担当授業科目】

栄養教育特論／応用健康栄養科学演習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

教授(研究科長)※

稲山 貴代

イナヤマ タカヨ

【連絡先】

inayama.takayo@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

応用栄養学、健康科学、公衆栄養学

【研究テーマ】

知的障がい児・者や地域在住高齢者を対象とした肥満対策あるいはフレイル予防を目的とした健康づくり支援システムの開発

【担当授業科目】

栄養マネジメント特論／応用健康栄養科学演習／インターンシップ A: 健康づくり実践実習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

教授※

小木曾 加奈

コギソ カナ

【連絡先】

kogiso.kana@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

食品科学、農芸化学、生活科学

【研究テーマ】

地域の未利用資源を対象に分析・加工を通じた有効活用方法

【担当授業科目】

食品開発・製造特論／基礎健康栄養科学演習／インターンシップ C: 地域産業連携実習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

准教授※

今村 晴彦

イマムラ ハルヒコ

【連絡先】

imamura.haruhiko@u-nagano.ac.jp

【専門分野】

公衆衛生学、社会疫学、地域保健、実装科学

【研究テーマ】

地域や職場における社会環境（特にコミュニティ）に着目した、健康・栄養に関する課題発見と解決手法（政策を含む）の開発・評価

【担当授業科目】

実装科学／栄養と健康のデータサイエンス演習Ⅰ／栄養と健康のデータサイエンス演習Ⅱ／健康・栄養政策／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

准教授

白神 俊幸

シラガトシユキ

【専門分野】

臨床栄養学、基礎栄養学、臨床分子栄養学

【研究テーマ】

腸管上皮における栄養素輸送担体の調節機構の解明と疾病の予防や治療に向けた基礎検討

【担当授業科目】

栄養科学特論／基礎健康栄養科学演習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

助教

吉井 瑛美

ヨシイ エミ

【専門分野】

栄養教育、行動科学

【研究テーマ】

子どもや養育者に対する健康な食生活のための栄養教育の検討

【担当授業科目】

ヘルス・コミュニケーション特論／応用健康栄養科学演習／健康栄養科学特別研究Ⅰ／健康栄養科学特別研究Ⅱ

科目一覧

基盤科目	専 門 科 目				
	専門共通科目	基礎健康栄養科学分野	応用健康栄養科学分野	学外連携科目	特別研究
■ 研究倫理と研究法	■ 健康・栄養政策	■ 栄養科学特論	■ 栄養マネジメント特論	■ インターンシップA：健康づくり実践実習	■ 健康栄養科学特別研究Ⅰ
■ 実装科学	■ 地域健康づくり活動論	■ 健康栄養科学特論	■ 医療栄養学特論	■ インターンシップB：クリニカル・ニュートリション実習	■ 健康栄養科学特別研究Ⅱ
■ 栄養と健康のデータサイエンス演習Ⅰ	■ ヘルス・コミュニケーション特論	■ 健康医学特論	■ 国際栄養学特論	■ インターンシップC：地域産業連携実習	
■ 栄養と健康のデータサイエンス演習Ⅱ	■ 食文化特論	■ 食品開発・製造特論	■ 栄養教育特論	■ インターンシップD：海外フィールドワーク実習	
	■ 健康発達心理学特論	■ 食品科学特論	■ フードマネジメント特論		
	■ 子どもの健康発達心理学特論	■ 基礎健康栄養科学演習	■ 応用健康栄養科学演習		

大学院教育の必要性

松本大学名誉教授 廣田 直子 先生

特色のあるカリキュラムを有する管理栄養士養成施設として全国的に注目されている長野県立大学ですが、4年間の学部教育では管理栄養士の資格取得を中心に組み立てざるを得ません。食や栄養、健康に関わる現状の課題解決に向けては、資格取得のための教育だけではなく、臨床や福祉分野におけるより高度な栄養管理業務、県や市町村における科学的根拠に基づいた栄養行政、教育現場で評価される食育実践、食品関連企業の研究開発職等において、データサイエンスに基づいた研究を進め、地域課題の解決に貢献できる人材が必要です。

こうした人材を育成していくためには、学部教育の上に、大学院での学びと研究の推進が必要です。長野県立大学大学院には、実際のフィールドを活用しながら教育・研究を行い、高度な人材を育成していただきたいと思います。長野県には、すでに栄養分野とともにスポーツ分野の応用・実践的な科学を基盤にした松本大学大学院健康科学研究科がありますが、栄養分野に強みをもつ県立大学大学院が開設されることで、両大学院が連携して地域の健康を支え、長野県の健康長寿の推進に寄与してくださることを願っています。





大学院から広がる可能性 ～社会人学生インタビュー～

大学院で学ぶ社会人学生より、これから入学する社会人に向けたアドバイスやメッセージを届けます。

門戸が開かれた社会人大学院で多くの学びを

専門学校を卒業後、国立病院機構で20年以上働き、学会発表なども経験するなか、学術的な研究手法をきちんと学びたいと考え大学院に進学しました。長年離れていた栄養教育の進歩は目覚ましく、日々学びの面白さを実感しています。また、授業は少人数制で教授の1対1指導も受けられるなど、贅沢な環境も魅力。同期も幅広い職場で働く管理栄養

士や保健師など多様で、互いの情報交換も現場の業務に役立っています。私と同様に、専門学校卒の管理栄養士のなかには現場で研究の必要性を感じている人もいます。本学は大卒者と同等以上の学力があると認められれば、専門学校卒であっても大学院進学が可能です。この制度を多くの希望者に広く知ってもらえると嬉しいです。



小川 祐介さん

年齢で学びを諦めない、一步踏み出して

長野県の栄養教諭として働き、県教育委員会に異動して指導主事に着任、国の食育推進計画の立案などに携わることで、自分の見識を深めたい、もっと学びたいと考えていました。残業や出張が多い仕事柄もあり、大学院入学は難しいと諦めていたところ、本学は必ずしも2年で卒業する必要はないと聞き、定年退職1年前に、働きながらの進

学を決意。現在は長期履修制度を利用して3年計画で履修しています。今年度は、研究を進めるうえでより理解を深めたいと感じたデータサイエンスの授業を再履修。意欲次第で学び直しをする機会があることにも、この大学院の魅力を感じています。私のチャレンジが、今後進学を希望する多くの人の後押しになったらと願っています。



高橋 和子さん

社会人でも学びやすい環境と充実のサポート制度も魅力

石川県で健康づくりやアスリート支援業務に長年携わり、現在は病院の管理栄養士として働いています。次第に後進育成などの業務が増えるなか、これまで学んできたことをまとめて発信することに難しさを感じていました。そのためには、論理的に考え発信する“プロセス”を学ぶ必要があると感じたことが大学院進学のきっかけになりました。働

きながら学ぶうえで、本学は講義が平日夜のオンラインと土曜の対面での形式があること、さらに長期履修制度があることも入学の後押しとなりました。もちろん学術面は先生方に気軽に相談でき、仲間のサポートも心強く感じています。私のように現場で悩んでいる方、ぜひ大学院で共に学びましょう。



高畠 朋子さん

学費・入試について

学 費	
入学科 282,000 円	授業料（年額） 535,800 円

※その他、保険料、教科書代、実習費等が必要になります。

入 試 の 概 要
英語、健康栄養分野における専門科目の筆記試験（合計2科目）および面接により実施します。

※入試の詳細は学生募集要項をご確認ください。

募集人員
5名

インターンシップ制度の活用

学外連携科目として「インターンシップ（A・B・C・D）」を配置しています。多職種連携も含め、各職域の現場における実践的な学びから、複雑・困難な課題に対する解決能力を養うことが目的です。社会経験の乏しい大学新卒者においては、現場で必要とされる実践力の修得ならびに深化、関連する社会の把握や多職種連携による業務遂行の必要性和と実際を学ぶこと

ができます。社会人においては、より先進的な職場や異なる職域を経験することで、自身の職域における課題解決に結びつける力を体得することができます。「A：健康づくり実践実習」「B：クリニカル・ニュートリション実習」「C：地域産業連携実習」「D：海外フィールドワーク実習」の4科目のうち、2科目まで履修・単位修得が認められます。

3 期生座談会 2024年4月に入学した3人の対談から、入学のきっかけや大学院での学びの魅力を紹介します。



社会人学生として入学

三河 長野県立大学の卒業生で、現在は長野県南端の村立小中学校の栄養教諭をしています。学校現場で栄養教諭の認知や食育が浸透していない現状を実感し、自分がどう動くべきか解決策を学びたいと思い、大学院進学を決めました。

堀越 都内の大学で管理栄養士養成課程を卒業後、地元・群馬県の栄養士養成校に勤務し、助手を務めています。職場で学生に関わり、調理実習や給食実習のサポートなどを行うなかで、教員として成長し、学生に学びを還元したい気持ちから大学院に入学しました。私が学生時代に学んだ調理科学や食文化を研究テーマとする教授のもとで学べること、また長期履修制度があり、仕事と勉強が両立で

きる環境に惹かれたことが本学に入学した決め手です。

田中 関東の大学で管理栄養士養成課程を卒業後、地元の長野県に戻り、病院勤務を経て、現在は市役所で、行政栄養士として成人の健康管理や検診の対応、保健指導を主な業務としています。学生時代はコロナ禍で研究が困難な状況だったことから、就職後、研究意欲が高まり、大学院進学を決意。県内に研究のフィールドがあり、さまざまな職業や研究の経験者と交流できて自分の学びになることが魅力でした。一度社会人を経験してから勉強し直すと、学ぶ意義が明確になって楽しく、学生時代との違いを感じています。

堀越 同期にも恵まれ、それぞれの職場の話を聞くなかで、自分が将来的に栄養

士養成校の教員としてどうありたいかを考える良い機会にもなっています。

田中 確かに、同期が皆、全く違う仕事に就いているので、それぞれの職場の話を聞くこと自体が新鮮で面白いですね。

三河 少人数制の授業は先生の講義だけでなく皆で話して学びを深めていくので、私自身のスキルアップにもつながっています。また、先生方との距離が近く、ささいな相談事も親身になって応じてくれるのも魅力ですね。

事前の入試対策で意義ある学びを

田中 大学院入試はハードルが高い印象がありましたが、先生との事前面談で研究計画を相談でき、試験対策も指導してもらえます。しっかり勉強すれば院生になれることは、ぜひ皆さんに知っていただきたいですね。

堀越 私も事前面談で長期履修による計画を先生と一緒に考えてくださり、仕事と勉強の両立が可能だと思えました。先生方に感謝しています。

三河 それに自主的に学ぶ勉強は苦ではないですね。社会人として学ぶからこそ理解が深まり、同期からも良い刺激を受けられるという大学院での意義ある学びを広く伝えたいです。